

ゲンロン カオス\*ラウンジ 新芸術校  
第4期連続展覧会始動のお知らせ



# オソレの品種改良



2018年9月から12月まで、毎月、新芸術校受講生による新しいグループ展を五反田アトリエにて開催。  
9月15日（土）にはその第1弾となるグループAの展示「オソレの品種改良」がオープン。デザインは三浦春雨による。

## （1）概要

2018年9月より、ゲンロンカオス\*ラウンジ新芸術校第4期生によるグループ展シリーズを開始いたします。9月15日（土）からはじまるグループA「オソレの品種改良」展を皮切りに、2018年12月まで、東京・五反田のゲンロンカオス\*ラウンジ五反田アトリエにて、毎月ひとつのグループが新しい企画展を行います。これらの展示では、批評家・黒瀬陽平主任講師の指導のもと、受講生がみずから企画・キュレーション・作品制作を行います。展示には毎回ゲスト講師をお招きして講評会を行い、講評会の模様はニコニコ生放送のゲンロン完全中継チャンネル

(<http://ch.nicovideo.jp/genron-cafe>)で無料生中継いたします。ゲスト講師はグループAから順に鴻池朋子氏、飴屋法水氏、高山明氏、宇川直宏氏です。4回のグループ展は最終講評会への選考も兼ねており、これらの展示で卓越した力を発揮した受講生5名は、3月にゲンロンカフェで行われる最終講評会に出品することができます。

ゲンロンカオス\*ラウンジ新芸術校は思想家・東浩紀が運営する株式会社ゲンロンが2015年に立ち上げたアートスクールです。美術批評家の黒瀬陽平氏を主任講師に、会田誠氏、榎木野衣氏、

岡田利規氏、宮台真司氏ら、多彩なゲスト講師をお迎えして、美大とは異なる形で美術家を育成してきました。2018年度は前年度のシステムを引き継ぎ、受講生による展示を中心に据えたものになります。4月から8月の展示指導の授業で学んだことをベースに、9月以降は実践の場として、実際に展示を行います。

第1期の最終講評会で優秀賞を受けた弓指寛治氏 (<https://www.yumisashikanji.com/>) は、第21回岡本太郎現代芸術賞(2018年2月)において、銀賞に当たる岡本敏子賞を受賞しました。第2期優秀賞の磯村暖氏 (<http://danisomura.tumblr.com/>) は、台湾やロンドン、タイなど、国際的に活躍の場を広げています。第3期優秀賞の新井健氏は、2018年9月15日より、ワタリウム美術館地下のギャラリー、オン・サンデーズで個展「OUTTA STEP」(<https://bijutsutecho.com/exhibitions/2532>) を開催いたします。

## (2) 展示概要

### 【グループA】

## オソレの品種改良

参加作家 伊賀大、三浦春雨、浦丸真太郎、BeBe

展示期間 2018年9月15日(土)～9月23日(日) ※9月22日(土)は講評のため終日休廊

会場 ゲンロンカオス\*ラウンジ 五反田アトリエ

〒141-0022 東京都品川区東五反田3-17-4 糟谷ビル2F Tel: 03-5422-7085

開廊時間 平日 15:00-20:00、土日祝 13:00-20:00 (講評会実施日を除く)

website <http://chaosxlounge.com/wp/archives/2365>

講評会日時 2018年9月22日 14:15～17:30

※ニコニコ生放送にて中継をいたします。会場参加は受講生のみとなります。

講評会ゲスト講師 鴻池朋子氏

### 展示ステートメント

ゲンロンカオス\*ラウンジ 新芸術校第4期グループA。4人のアーティストのグループ展である。新芸術校第4期は様々な背景を持つ者で構成されており、今回展示をする4人もまたキャラ立ちをしているのだが、彼女らは、極めて原初的な当人の「自覚するところ」と「無自覚のころ」の揺らぎの中で今回の作品は制作された。

展覧会タイトルに触れよう。現代。少なくない人々は無意識に様々な「タグ付け」をし、感情も、行動も、テンプレート化が自動生成される思考停止の元に生きている。しかし『私には心がある。私の支配者は私だ。』と言う反論ももちろんあるだろう。では、その心こそが、人間の原罪であるならばどうだろうか。

参加作家 BeBe は言う。『心はすごくあやふやで曖昧なものなのに、心を満足させる事や納得させようとする力が強すぎた、重きを置き過ぎた』と。私たちは、テンプレ化した日常をアミニズムの突然変異のような土地で生活している。心とはかけ離れた原始信仰だった土地の人間が、心の飼犬になった。自然を正當にオソレた事が、日本のアミニズムの起点であるならば、当時の我々は、『私もまた自然である』と考え、心の「恐れ」と身体の「畏れ」を一体化して、自然になりきった。オソレは我々にとって文化の起点の一つだった。現代のテンプレの日常は、そこから、あまりに遠くに来すぎてしまったのかもしれない。そこに「品種改良」を施そうというのが今回の試みである。品種改良という極めて人為的な行為に、私たちは一度立ち止まり、「品種改良」の意味を少し拡張してまわりを見つめてみると、「品種改良」は根を深くして点在していることがわかる。誰のための「品種改良」が今まで行われ、これからは必要なのか。今一度、私たちは文化の起点にあ

った、心と身体が混じりあっていた「オソレ」を取り扱い、成熟の文化（のように見える）の上にオソレの萌芽を探す。この萌芽に、作家は何を接ぎ木すべきなのか。私たちは、何を育てるべきなのか。（小林真行）

### （3）最終講評会

**実施日** 2018年3月2日（土）

**審査員** 岩渕貞哉氏、津田大介氏、和多利浩一氏、黒瀬陽平氏

### （4）主催、協力、お問い合わせなど

**主催** 株式会社ゲンロン   **協力** 合同会社カオスラ

**新芸術校公式サイト** <http://school.genron.co.jp/gcls>

**新芸術校公式フェイスブック** <https://www.facebook.com/genrongcls>

**新芸術校公式ハッシュタグ** #新芸術校

**お問い合わせ** E-mail : [info@genron.co.jp](mailto:info@genron.co.jp) Tel : 03-6417-9230 （担当 上田）